

2023. 11. 03

No.023

上野支部 年末手当要求行動 **その2**

本部へ届けた一紙拠要求(抜粋)

・昨今の物価上昇に伴い実質賃金が低下し続けており、貯蓄を切り崩している状況で生活は苦しくなっている。無駄な設備投資より人に投資するべきである。「社員、家族の幸福実現」を口だけでなく形で示すことを真剣に考えるべきである。

・物価上昇に賃上げが追い付かず、実質賃金の低下が止まらない。22年度から2年間で13万円以上物価上昇しており、家計への打撃は大きかったにも関わらず、賃金は抑制され続けてきた。

・これまでコロナの我慢や苦勞のなか、手当は抑えられ賃金は思うように上がらず、一方では効率化によって業務量が増え、会社は黒字化を達成し、かなり儲かっている。しかし、このような状況に若手の離職は止まらず、魅力の無い会社になっている。

・窓口の縮小に伴い、連日と列が切れない状況の中で奮闘している。そのような現場努力があり、昨年度は黒字化を達成したが今年の夏季手当は社員の努力を足蹴にする回答であった。

**会社は現場の声を真摯に受け止め
満額回答すべきだ!**